

長崎 検定

一級 さん

Vol.17

よかばい！長崎、さるいてみんね！

山口

幸さん

合格率十二・二％。長崎歴史文化観光
検定の最難関を突破した一級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一家言
ありそうです。
さくくはらんに寄稿願いました。

私が長崎検定の受験を思い立ったのは、平成20年4月に発表された1級検定試験の報道がきっかけでした。それ以前にテキストは購入していたのですが、受験の意欲もないままお蔵入りにしていましたが、この報道に刺激されて自分も難関に挑戦してみよう！と決意し、翌年の平成21年に2級を受験、今年1級に挑戦しました。結果は幸いにも合格することができましたが、私にとってこの1年間はとても充実した日々を過ごすことができました。

1級検定はすべて記述式となっているため短文の纏めもさることながら、正確な漢字を覚えるのは少なからず苦勞しました。長年勤めた会社生活でもパソコンが主流を占めており、手書きを必要とするケースは殆どありません。数十年ぶりに始めたテキストに出ている見慣れない漢字の練習、いざ書いてみると、テン（点）がいるのか、いらぬのか？最後はハネるのか、ハネないのか？ひとつひとつが気になり、拡大鏡で辞書を引きながらの確認の繰り返し。間違っって覚えていた字

も一つや二つではなく、これまで如何に出鱈目な字を書いてきたのか、を痛感させられる羽目になりました。

敵しかった高校時代の国語の先生までが頭に浮かび、まさかこの年になって漢字に悩まされるとは？練習を横で見っていた妻から、次の目標は漢字検定に決まり！とまで言われる始末で、ポケ防止どころの話ではありません。パソコンでは難しい言葉も容易に漢字に変換できるし、覚える必要もありませんが、こんなことで日本の国語教育は大丈夫かと、今度は教育の問題にまで波及して、いやはや大変でした。お陰さまで読みにくかった私の下手な字も練習を重ねていく内に、随分読みやすくなったね、と妻から褒められました。とんだ拾い物です。

それから、テキストやさるく編で紹介されている史跡や町並みを、妻と一緒に回って見識を深めていきました。至るところで歴史の深さや当時の人達の偉大さに感動するばかりで、これまで知らなかった長崎の奥の深さを少しでも知り得たことは私にとって大きな収

穫で、これも今回のチャレンジのお陰だと思っています。

外海にあるド・口神父の遺跡や枯松神社など、観光客も殆ど訪れない静かな史跡を訪ねると、タイムマシンでその時代の人達と一緒に生活し、話をしてみたい気持ちにもなり、また、日本が大きく変わる140〜150年前の江戸時代末期から明治時代初期の激動期を空の上から見てみたい！そんな気持ちにもなり、夢は果てしなく広がりました。

最初は単に難関の1級に合格しよう！と意気込んで始めた学習でしたが、何げなく住んでいる自分の地域の歴史を調べればほど、その奥行きはどこまでも深く興味は尽きません。よかばい！長崎、さるいてみんね！



【プロフィール】
宮崎出身、66歳、長与町在住。
三菱在職中に長崎大学経済学部（夜間）に4年間通い、60歳で卒業。モットーは、「日々前進」